

## 放送大学島根学習センター開設 20 周年記念式典

平成 28 年 11 月 12 日（土）13:30～  
島根県立美術館ホール



### 岡部洋一 放送大学長 挨拶

本日は放送大学島根学習センター 20 周年記念にお呼びいただきありがとうございます。天気もよく、この後、夕日が見えるのではと楽しみにしています。

放送大学の関係以外の方もおられますので、少し大学の仕組みなどを話します。放送大学はいまから 15 年くらい前に放送大学学園という学校法人が設立され、36 年前に学園ができ 33 年前に放送大学が設置された。もともと生涯学習を行う組織として設置され、当時としては新しい技術であったテレビラジオを積極的に使った大学として設置された。放送業務は国がやってはいけないという規則があるため、形式上は私立大学となっている。

その後 15 年くらいしたところで、全国化を目指した。それまでは各地方へは CD やビデオで配布することでやっていたが、15 年前に衛星を使った放送が可能になったことから、最初は CS 放送で全国化を果たした。同時に学生は試験を受ける必要があり、全体の 20% は直接講義が必要なことから、全国に 57 の学習センターとサブセンターを整備した。

学習センターは各県に必ず一つあることから地域との連携も強くなり、特に本学の学生は層が厚い。若い人は 15 歳から入っていて 18 歳から大学生として扱っている。上の世代は、働く世代が多く、全学生の 3 分の 2 くらいで、残り 3 分の 1 は 20 代と 60 歳以上で、60 歳以上は長くでこの秋卒業された方は 99 歳でした。

入学料は安くて、授業は単位ごとにお金を払う仕組みとなっています。そのこともありますし、学生さんが自活した方が多くて学生の学習意欲が想像を絶するほど高いと思っています。各地域の大学に面接授業のお手伝いをお願いしていますが、先生が驚かれるのは、座席が前から詰まることと、授業後の質問や発言が積極的であることに關心されるのが本学の特徴です。

実は学習センターの所長は、地域の国立大学から推挙いただいていますし、事務系はおおむね国立大学からサポートいただいています。改めて島根大学にお礼を申し上げます。またこの学習センターは松江市のスティックビルの中にあリまして、積極的に市に支援をいただいています。県についても、支援をいただいていますので深く感謝しています。ありがとうございます。

## 佐々有生 放送大学島根学習センター所長 挨拶

本学習センター開設 20 周年記念式典開催に当たりご挨拶申しあげます。思いがけなく秋晴れになりました。本日は島根県教育委員会教育次長今岡充様、松江市教育委員会副教育長古藤浩夫様、島根大学学長服部泰直様、本部からは放送大学岡部洋一学長と多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り本記念式典が盛大に挙行できますことを心より厚くお礼申し上げます。このたびは島根県立美術館様のご厚意により、会場の様々な面からご助言、ご支援をいただき開催できることをお礼申しあげます。

さて島根学習センターは平成 8 年に松江市のスティックビル内に島根地域学習センターとして開設いたしました。平成 12 年 5 月島根県のご支援で浜田市に放送大学浜田コーナー、平成 17 年 10 月には益田市のご支援により放送大学益田コーナーが設置され、順次、本学習センターの機能拡大、強化が進められてきました。こうして 20 周年を迎えることができたのも、まぎれもなく開設当初から島根県、松江市、島根大学様による、施設や人的交流・授業等の特段の支援の賜物であり、本学習センターで学ばれた学生の皆様、初代所長錦織禎徳様をはじめ歴代の所長様や職員様や今日までご学習センターん活動に対し多大なご理解ご支援いただいた多くの方々によるものと思っています。この場を借りて深く感謝を申し上げます。

本学習センターは設立時の平成 8 年度 2 学期の学生数、581 名でスタートしています。以降、年度学期によっては、422 名から 1042 名の間で推移してまいりましたが、今年度 2 学期現在は約 600 名の学生の皆様が学ばれています。この 20 年間のあゆみでその機が熟した一つの現れかなと思いますが、近年では不思議と記念すべき出来事に出会うと個人的に感じています。その一つは昨年度、本学習センターでは初めてとなる全コース卒業の名誉学生が誕生しました。開設当初の入学生の方だと思いますが長年にわたる確かな放送大学の学びを象徴する姿に接することができ嬉しく思っています。次に 3 年前になりますが、平成 25 年 4 月に同窓会が設立され、今年 3 月に念願のホームページが開設されました。同窓会設立およびホームページ開設は一朝一夕には叶いません。まさしくこれは同窓生の皆様の放送大学の学びへの熱意思いの醸成にほかならずそのためには紆余曲折の長い道のりを経てできたものと思えます。三つ目は卒業研究・修士論文概要集の刊行があります。論文集等の発刊の声はかねてからあがっていましたが、本概要集は本学習センターと島根同窓会、学友会との協働によりくしくも 20 周年を迎える節目の年に創刊することができました。学生のみなさん自らが、新たな知見へとあゆみを進めた調査研究の成果の一部をまとめたものでわずか 30 ページの冊子ですが、そこにはご寄稿いただいた皆さんの知への探求心が凝縮されており次の学びへの大きな一歩になるものと期待しているところです。

また昨年度、本学習センターで初めての博士全科生が誕生しております。本年度も博士課程の受験者も見ています。修士課程の受験も増加傾向にあり、これまでのさまざまなコースの幅広い学びと並行して少しずつであります、学士から修士・博士へと特定の分野

に焦点化して学びを深めようとしている学生の姿勢の変化を感じています。こうとらえると本学習センターは次なるステージへ踏み出す時期にあるのかなと感じています。また、20周年の節目を迎えるということは、出雲大社の平成大遷宮の意義になれば、設立当初の精神に立ち戻って設立意義を再認識し、本学習センターの近未来の役割等を展望しながら、エネルギーの再生になるのではないのでしょうか。

今日インターネットの急速な発展により、多様なメディアを高度に利用した授業が求められています。放送大学では今後従来の放送授業、面接授業に加えて、学長の話にもありましたが、オンライン授業の導入を進め放送・面接・オンライン授業の3者を組み合わせた遠隔放送教育を目指しています。そうした放送授業のインターネット配信の拡充等に伴い、利用ニーズの変化に対応した新たな学習センターの機能の見直しを迫られています。地方創生時代にあって、本学習センターは本日ご出席いただきました皆様がたや関係機関等とのさらなる連携を図りながら地域の知の拠点としての強みを生かし地域貢献等、島根の地において生涯学習拠点としての役割を果たしたい。

なお、本日ご出席の皆様には記念式典のあと、20周年記念講演会、および島根県立美術館コレクション展の鑑賞等も予定しておりますので、心豊かに有意義にお過ごしいただければ嬉しく思います。最後になりますが放送大学島根学習センターに対して、今後とも皆様のご理解とご支援をいただきますようお願い致します。本日はありがとうございました。

## 服部泰直 島根大学長 祝辞

本日は放送大学島根学習センター開設20周年、誠にありがとうございます。学長はじめ関係者の皆様に心からお祝い申し上げます。

島根大学は唯一の国立大学ですが、島根県に私立大学はないと思っていましたが、ここに放送大学という立派な大学があることを改めて感じました。学長や県教育委員会、市教育委員会のお話から、島根学習センターが島根県・鳥取県の地域高等教育に多大な貢献をされていることを改めて認識しました。

今ここに数多くの諸先輩を前に非常に居心地が悪い思いをしています。私ごときが挨拶を申しあげるのはおこがましいと思いますが、若干島根大学と放送大学の関わりについて、ご紹介申し上げます。今両大学は単位互換制度を設けています。島根大学からは平成12年から今まで延べ409名の学生が、放送大学の授業科目を履修している。科目数は1036科目で、今年度は14名38科目の授業を履修させていただいている。また放送大学からは過去5年間に20名が島根大学の授業を履修しています。また、島根大学の一般職員の研修の機会として、履修をさせていただき過去19年で678名が放送大学の授業科目を履修し、自己研鑽に励んできました。島根大学にとってもなくてはならない放送大学です。個人的な話をしますと、10年ほど前に内藤所長の時に面接授業の依頼を受けて1回だけ授業をしました。非常に好評だったようで二度と声がかかりませんでした。それはともかく多くの島根大学の教員が講師としてお招きいただき授業をさせていただいています。これも島根大学と放送大学の連携の現れと考えております。

生涯学習の機会として発足した放送大学は今社会人の学びなおしとして重要な使命となっています。島根大学も山陰地域の皆さんに対する社会人の学びなおしの機会提供していますが、放送大学の多種多様な授業科目・カリキュラムを参考にさせていただき、生涯学

習・社会人教育の取り組みを強化しています。

島根大学と放送大学・島根県立大学の3大学を島根県鳥取県の知の提供として今後ますます島根大学も積極的に取り組んでいこうと考えています。本日は放送大学島根学習センターの20周年をお祝いするとともに、今後ますます発展し島根鳥取地域の高等教育に貢献されることを祈念して挨拶とします。(文責・石川直樹)